

日向灘における地震活動の特徴

山下裕亮（宮崎公立大学 地域連携・防災研究センター）

ポイント

- 日向灘南部では約 30 年の間隔で M7 級の大地震が繰り返し発生してきたが（図 1）、2024 年の地震により、約 60 年の間隔で 2 つのグループが 30 年ずれて活動していると考えられることが明らかとなった（図 2）。
- 小繰り返し地震解析から推定される震源域周辺の非地震性すべりレート（2~3cm/yr）で 60 年間蓄積されたひずみを解放していると考え、ひずみの収支は調和的。
- 一方、プレートの沈み込みに対しては半分程度の解消に留まっており、残りは長期的 SSE や 1662 年日向灘地震のような M8 級の巨大地震で解消している可能性がある。
- 日向灘の地震活動の特徴をさらに明らかにする上での課題を以下の通りまとめた。
 - プレート境界（特に沖合）における地震性、非地震性のすべり推定の精度向上
 - 過去の大地震（特に 1931 年や 1961 年）の震源過程の解明
 - 歴史史料を用いた新たな地震の同定
 - 様々な現象を包括的に再現するシミュレーション
 - 物理パラメータを拘束するための地質学的研究（掘削等）

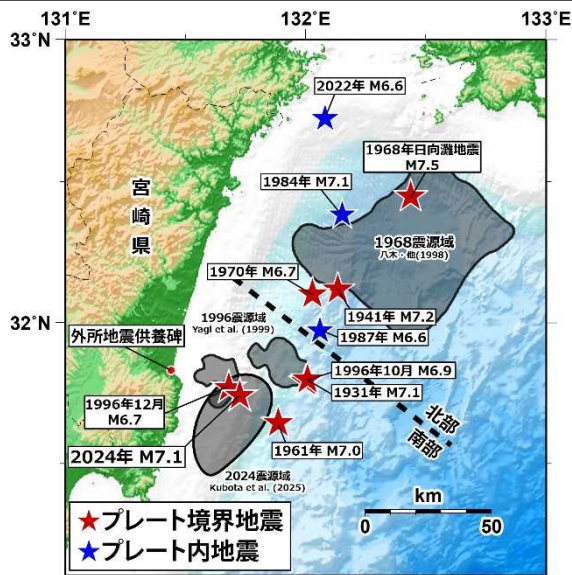


図 1. 日向灘における M7 級の大地震活動の震源と主な震源域（グレー）。震源は気象庁一元化地震カタログを使用。1968 年日向灘地震（八木・他，1998），1996 年 10 月・12 月（Yagi et al., 1999），2024 年（Kubota et al., 2025）。図は山下（2024，なみふる）に加筆。



図 2. 1662 年日向灘（外所）地震の供養碑（宮崎市島山，図 1 参照）。約 50 年ごとに 1 基建てられており、現在 350 年の供養碑が 2007 年に建てられている。